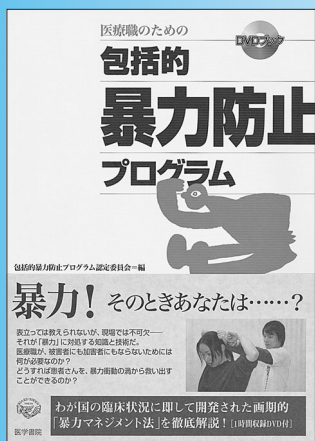


「気をつけてね」で済ませない 職場環境を築くために

【評者】村中峯子 (社)全国保健センター連合会

DVDブック 医療職のための
包括的暴力防止プログラム
包括的暴力防止プログラム認定委員会(編)



定価 2,415 円(本体 2,300 円+税 5%)
B5判, 220 ページ
医学書院(Tel.03-3817-5657)

看護学生のとさだだった。男性入院患者に突然、胸を触られたことがある。反射的に、私は彼の左頬にヘビー級の平手打ちをお返ししてしまった。自己嫌悪と後悔で目の前が真っ暗になった。そんな私を婦長さんが慰めてくれた。「平手打ち、強烈だったんだって？後は私が対応するから、大丈夫よ」。堪えていた涙がどっと溢れた。とっさのとき、看護職として、何を大事に行動するのか、のちのちも自分なりに考え続けるきっかけになった。

もしもあのとき、「我慢すべき」「際があった」と、あるべき論で叱責されただけなら、私には本書を手取る意欲も、斟酌している男性が大暴れている家庭や、攻撃性の高まった統合失調症の家庭に、援助者として訪れ続ける覚悟は生まれなかったと思う。適切にアフターケアされない暴力は、した側にもされた側にも、さまざまな形で後を引くものだろう。

本書はおもに精神医療における暴力介入に焦点をあて、暴力を「危害を加える要素をもった行動(言語的なもの、自己への攻撃も含まれる)で、容認できないと判断されるすべての脅威を与える行動」と定義する。そして、「暴力は治療やケアによって予防や対応が可能であり、適正な暴力コントロール技術によって好ましい治療関係を導くことができる」ことを認識し、その理論や方法を身につけることが大切だと一貫して主張する。援助者の気配りや観察だけでは暴力の前兆を把握し、防ぐのは困難であるとしている。

言うまでもなく、これは病院内に限ったことではない。保健師はもちろんのこと、さまざまな職種によって、地域で展開される訪問支援にいたっては、密室性も加わるのであるから、暴力の危険性やその対応については、本来、もっとつまびらかに語られることが必要ではなかったかと思う。「気をつけてね」で済ませていては解決できない。

誤解のないように記せば、本書は暴力を物理的な力で押さえ付けるノウハウの伝達を目的にしているのではない。精神障害者を「危険」と捉えるそれでもない。包括的暴力防止プログラムとは、暴力を防ぐ「防力」として、援助者がどう予防的に対応するのが適切なのか、暴力が起きたときは具体的にどうするのかについて段階別に科学的に開発された、援助者のためのプログラムなのである。暴力のリスクアセスメントとは何か、怒りや攻撃性をどう和らげるか、暴力行為に対してしてはいけなことはないとは何か、逃げ方、アフターケアについてが、詳細に論じられている。暴力をした側、された側をどうケアするかについても、必読の価値がある。身体動作解説 DVD が付き、写真も豊富だが、見よう見まねの手技を推奨するのではない。

本書を手にしてしまうと、一筋の道に向かい、すくくと立ち上がった清々しいエネルギーが伝わってくる。人間の尊厳を守りたいのだという、敬虔な姿勢がそこにある。恐れず悔らず、自らを貶めず、援助者される側・する側双方の幸福に向かい、職場全体で共有したい本である。